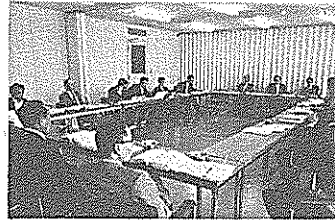


2月



再建計画案が諮問される

財政再建審議会は、2月25日、小笠原市長から、年間1億円の赤字解消をまとめた「財政再建計画案」について諮問を受けた。

諮問された計画案は「自主再建のため税率の引き上げ・人件費、職員の削減などで50年度に比べ約4億4,000万円を減額する」というもの。これを受けた同審議会では、再建案を具体的に検討することを決め、積極的な再建案を答申することになった。

2月

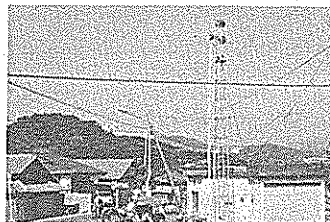
西見当遺跡の発掘調査

田村の西見当で発見された弥生時代前期（約2,200年前）の住居跡「西見当遺跡」。

2月18日から1週間にわたり、高知女子大の岡本健児教授らによって発掘調査が行われた。炊事場や作業場、貯蔵庫と思われるところから、石斧（ふ）、ツボ、浅パチなどが多数発見され、古代の稲作を探る貴重な資料となった。



2月



無線遠隔サイレン

消防本部のボタン1つで久礼田、稲生など、市内6カ所の消防屯所のサイレンが鳴り、スピーカーに切り替えると放送ができる——

無線遠隔サイレン・放送制御装置が—昨年12月から市消防本部でスタートしている。消防本部では、この装置をつかって火災の発生、鎮火はもちろん12時を知らすサイレン、火災の発生と場所、応援出動の要請、鎮火のお知らせ放送などにフル活用している。

二の一年

51年のできごと

『まず手がけなければならないのは財政の立て直しだ』

小笠原市政が誕生して2年目を向えた。

昭和51年——文字どおり財政再建にはじまり、財政再建に終わったこの1年。財政問題に、空港問題にと南国市政は揺れ動いた。いま、市民・議会・市、三者一体となって自主再建への道を歩みはじめている。

52年——さわやかな町づくりを進めていくために、この1年を市民とともに振り返り明日への糧（かて）にしていきたいものだ。



4月

吾岡保育所が開園



人口急増などで毎年入所難にあっている大篠地区に「救世主」。

4月8日、私立吾岡保育所が開園した。これは、大畑福祉協会（佐竹弘光理事長）によって昨年10月から建設されていたもの。鉄筋2階建て、延べ637.19平方メートル、総事業費約7,700万円、120人収容できる。

これで市内の民間保育所は2カ所となり、公立15を合すると17保育所となりました。

4月



欠員の不補充・昇給延伸

「南国市は今、財政再建という大きな問題をかかえている。私たちも一市民として努力していきたい」——4月5日、沢村泰誠さんから17名の永年勤続の退職者に感謝状が贈られた。

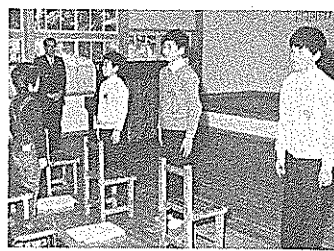
なお、財政再建のための欠員の不補充、昇給延伸などのしわ寄せに職員も協力しました。

3月

黒滝小在校生1人となる

3月24日——まだ春寒い黒滝小学校の卒業式だ。

一時は中学校もあり100人を超える児童生徒がいたが、年ごとに子供数が減少、現在は在校生が4人。この日、西村くん、中山くん、谷口くんの三人組が卒業していった。1人残る在校生、吉村くんは「長い間ありがとう。これからはお兄ちゃんたちに負けないようにガンバります」と三人を送った。



1月



物産展大当り

埋もれがちな郷土の物産を掘り起こし、大いに売りこんで不況を吹きとばそう——。1月29日から高知大丸で「香南市町村の観光と物産展」が開かれた。

出品されたたくさんの郷土色豊かな特産品は、値段が安いうえ製造実演もあり、売れゆきも好調。はじめてのこの物産展は大当り。

1月

教育長に門田前助役

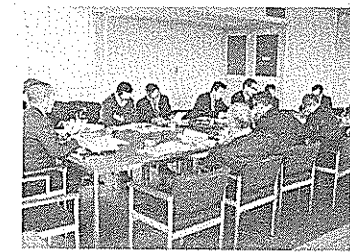
また、1月臨時市議会で門田真一前助役（54歳・高知市）の教育委員選任同意議案が可決され、教育委員会は同氏を教育長に互選した。

これは、岡林孝夫教育長ら3委員の任期が満了したことによるもので、教育長のほか教育委員として、藤本茂樹氏（55歳・田村）を再任、福岡弘幸氏（60歳・東崎）を新任した。



門田真一教育長

1月



再建審議会スタート

市の台所は49年度で3億4,000万円、50年度でも約6億円の赤字が見込まれるなど破産の状態だ。

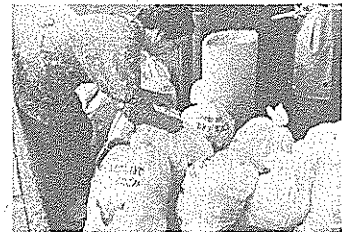
このため、1月臨時市議会において財政再建審議会（松木二郎会長）が設置された。市議会議員15人で構成された同審議会、「赤字の原因を解明し、基本的な財政再建計画について市長の諮問に応じて調査、建議すること」を目的に、自主再建に向ってスタートした。

7月

ポリ袋に切り替える

7月1日から、ゴミ袋が今まで使っていた紙袋からポリ袋に切り替えられた。

今までの紙袋は1枚26円、このうち10円を市民が負担、残り16円市が負担していた。しかし、市財政の悪化にともないこれまでの市費負担も困難ということから、経費のかからないポリ袋を使用することになったもの。市民負担は今までどうり10円、これで1,600万円の経費節減となる。



6月

行き詰まる協業みかん園

北部の協業みかん園（奈路、大平、八京）の経営が行き詰まり、窮状打開に頭をいためている。

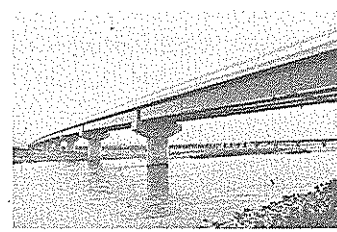
対策委員会を設け検討しているものの、いまのところこれといった再建策はない。現在、三園のうち二園はすでに耕作を放棄、残りの一園も放棄寸前にあつてもとも売却したい意志を表明している。

6月

物部川大橋が落成

河口をひとまたぎし、南国市と香美郡吉川村を結ぶ物部川大橋が完成し、6月12日、南国市の竹村清さん（田村）と吉川村の高瀬利行さん両家の親子3代夫婦を先頭に関係者らが渡り初めをして完成を祝った。

老朽化した下ノ橋の付け替えとするもので、ブルーで仕上げられた近代的な橋。黒潮観光ラインの新名所となりそうである。



5月



再建計画中間答申

5月4日、松木会長から小笠原市長に中間答申書が手渡された。

市長から諮問された財政再建計画を審議していた財政再建審議会は、12日の会合と2回の意見聴取のうえ、市税の増収・人件費の削減など歳入の増強、歳出抑制により年間1億円の赤字解消をはかる、そのための高負担や福祉後退など一時的に余儀なくされる行政水準の低下は止む得ないとした、中間答申をまとめ市長に手渡した。

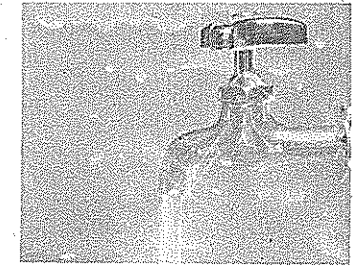
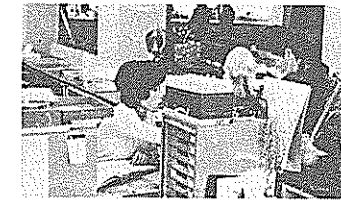
4月

市民税を引き上げ

4月臨時市議会は19日に開かれ市民税などが引き上げられることになった。

これは、先の国会での地方税法の改正と、財政再建計画での増収によるもの。超過税率から標準税率へ引き下げられていた市民税も市の財政悪化にともない再び引き上げられることになった。

このほか、軽自動車税、個人・法人市民税の均等割などが引き上げられ、税制改正と財政再建による増収は、1億200万円。



4月

水道料金を引き上げ

水道料金が4月から137%引き上げられた。

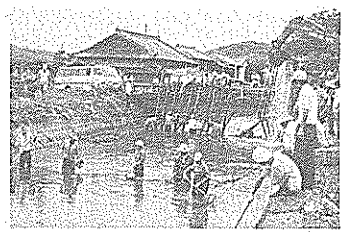
これは、市の水道料金が昭和42年以来、9年間据置かれていたことによるもの。1立方尺（1㍊）の水の原価は55円90銭しているにもかかわらず31円30銭で供給してきた。物価の高騰などのため水道会計は苦しくなる一方、そこでやむをえず値上げされた。なお、一般家庭用は75%のアップ。

8月

職員200人で大清掃

8月26日、市職員約200人が出勤して舟入川などのゴミ掃討作戦を展開し、多大の戦果をあげた。

「舟入川をゴミ入れ川にしないよう、上流でゴミを投げ捨てぬよう強力な対策を——」と、高知市民から越境陳情を受けているところから、市民モラルの啓発運動の活発化、現況のゴミ掃討の二面作戦で実施。当日は地元住民の協力もあり、川はみちがえるほどきれいになった。この日の戦果は約100㍊。



8月

アマチュア無線で救助活動

市役所にアマチュア無線クラブが誕生、非常時には市役所内にアマチュア無線局を開局することになった。

昨年の5号台風では、アマチュア無線による災害救助活動がなされたのは記憶に新しいところ。

現在、市内には約250人のアマチュア無線家があり、災害時や緊急の場合に協力を依頼し、スムーズな救助活動を行っていく。

7月

皇太子ご夫妻来高される

皇太子ご夫妻が、7月24日午後、高知空港着の全日空臨時便で来高された。

27日から2日間、土佐清水市で開かれる第18回自然公園大会にご臨席されるため、ご夫妻おそろいのご来県は今回が初めて。空港をはじめ、沿道を埋めた県民の歓迎にこやかにこたえられながら高知市へ向かわれた。



5月

青年団が演芸大会

新しい青年団員と親睦を深めよう——5月30日、中央公民館で市連合青年団（土居順一団長）は第1回演芸大会を開いた。

市内の9団体の青年団が、ミニミュージカルや舞踊、演劇、歌謡などの出しもので技を競い、約70名の団員が参加し、新しい団員と先輩団員とのなごやかな集いと熱演が4時間も続いた。

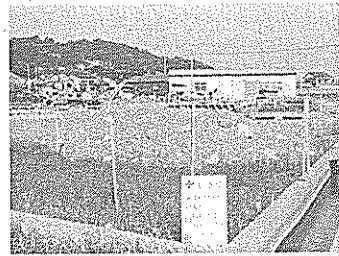


5月

当初予算決まる

5月臨時市議会は5月18日から開かれ、51年度の当初予算が修正可決された。

例年なら当初予算は3月議会で決まるもの。しかし、今年は財政再建という、重大な責務を負っているところから、4・5月の暫定予算という市発足以来初めてのものとなっていた。総予算額は48億1000万円で、今年1億円の赤字を解消する。また、交通遺児手当、母子福祉手当、老人年金の福祉3条例が廃止されることになった。



11月

高見団地の建設決まる

11月18日に開かれた臨時市議会において、継続審査となっていた公営住宅高見団地の建設が決まった。

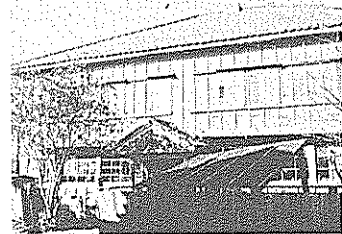
当初、舟入団地として計画されていたが市の都合により契約を解約、新たに計画したが賠償問題などのため継続審査となっていたもの。高見団地は、鉄筋ブロック2階建て16戸、総事業費5,900万円。完成は52年3月の予定。

11月

支所廃止で市政報告会

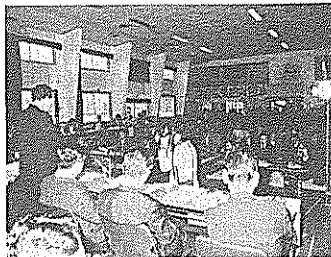
「関係住民と精力的に接することにより、地域の実状を知ろう」11月18、19、24日の3日間、それぞれ前浜、稲生、三和地区で市政報告会が開かれた。

この市政報告会では、財政再建のための支所廃止の問題と、当面する市政の概要説明が中心で、支所の問題については賛成、反対の活発な意見交換がされた。



11月

空港拡張で話し合い



空港拡張問題でなんらかの伸展をのぞむ県と、空港拡張反対市民連合との話し合いが、11月6日、日章公民館で開かれた。

会には、県側から中内知事をはじめ関係者ら、市民連合からは有沢会長のほか市民200人余りが出席。約4時間にわたり、基本姿勢と農地・騒音問題を中心に話し合いが進められたが、両者の主張は対立、次回の会合で詰めていくことになった。

9月

交通会館が落成

自動車運転免許証の更新時講習を南国で——ドライバーみんなの願いであった「南国交通会館」が、9月18日、大畑の南国警察署構内に完成した。

これは、交通安全協会南国支部（立田辰巳支部長）が、今年4月から工費約1,500万円で建設していたもの。今後は、管内の事故一掃のため、広く活用されることになった。



9月

死亡事故で緊急事態宣言

9月21日、南国署は「交通死亡事故抑止緊急事態宣言」を発した。

管内の交通事故は件数、負傷者とも昨年よりも減る傾向にあるものの、死亡事故はすでに昨年を3人もオーバーした。「今後は一人の死亡事故も起こさないように」との願いをこめて、徹底した安全運動を進めていくことになった。

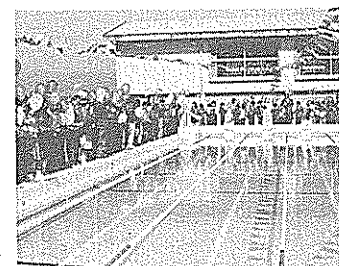


9月

台風17号が襲来

のろろ台風17号は一昼夜停滞するなどのめずらしいわざを披露、集中豪雨によって市内各地に大きな被害をもたらした。

稲生では承水溝が決壊、奈路杖谷や才谷の青谷ではき裂、地すべりの危険性があるため関係地区に避難勧告が出された。このほか、稲生、片山、後免など舟入川から下田川添いに家屋の浸水が相次いだ。対策本部によると、行方不明1、半壊4、床上浸水91、床下浸水465、被害総額10億8270万円。



12月

大湊小プール落成

夏には新プールで心ゆくまで水泳ができる——待ちこがれていた大湊小学校のプールが完成、12月11日に落成式が行われた。

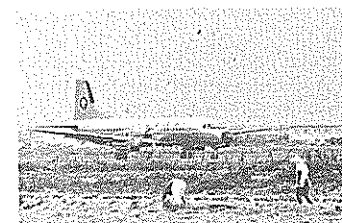
総事業費は1,872万円。鉄筋コンクリート、たて25mよこ12m(7コース)。大湊小には、南部小と前浜小が合併した42年からプールがなく、夏には合併前のプールを借りていたもの。

12月

空港拡張問題に動き

「農業や騒音問題などについての話し合いは今後も続けるが、対立する基本姿勢についての話し合いはしない」——空港拡張反対市民連合と知事との2回目の話し合いが、12月9日、市役所大会議室で関係者約100人が出席して開かれた。

また、14日には知事と地権者との初会合が開かれ、周辺地域の開発、騒音などについて話し合われるなど、空港問題にあわただしい動きをみせてきた。



11月

ありがとう大工さん

11月28日、日章小学校に関係のある大工さんら約20人が、校舎修繕の無料奉仕をした。

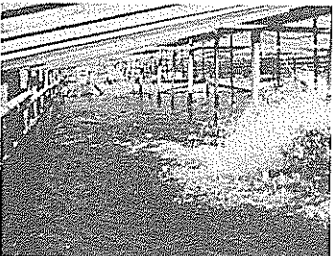
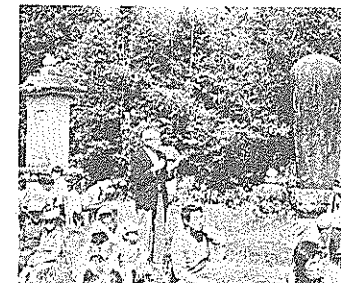
作業をした大工、左官、ブリキ屋、ペンキ屋さんらはみな「とうりょう、級の腕前を持つ人たちが、動かない窓、破れた板、きずだらけのテーブルなどが見ちがえるほど良くなりました。しかも、材料を自分で持ってきたの奉仕作業、学校をはじめ、子供たちも大喜び。

10月

史跡めぐりハイキング

体育の日の10月10日、久礼田体育会（北村福德会長）の主催による第1回史跡めぐりハイキングが行われた。

歩くことの少ない現代人にとって人気は——の心配をよそに約80人の親子ずれなどが参加。秋風がこころよく感じられ、快適なハイキングとなった。



10月

ハウス養まん急増

ハウス園芸からハウスウナギへ——ハウス養まんが盛んになっている。

温暖な気候など立地条件に恵まれており収益率が高いことなどから、十市、三和、前浜、日章などを中心に急増。

しかし、排水処理などに伴う公害問題が起きており、今後は団地化・協業化の方向が望まれている。

9月



老人クラブで河川清掃

私たちの川は私たちの手できれいにしよう——環境衛生週間の9月25日、上大畑の老人クラブ千寿会が新川の清掃をした。

新川は後免の町中にある川、これが汚れてはみともないという声がおこり、清掃にふみきったもの。70~90歳までのお年寄り80人が、くわやかまを手に清掃に汗を流し、意気盛んなところをみせた。